

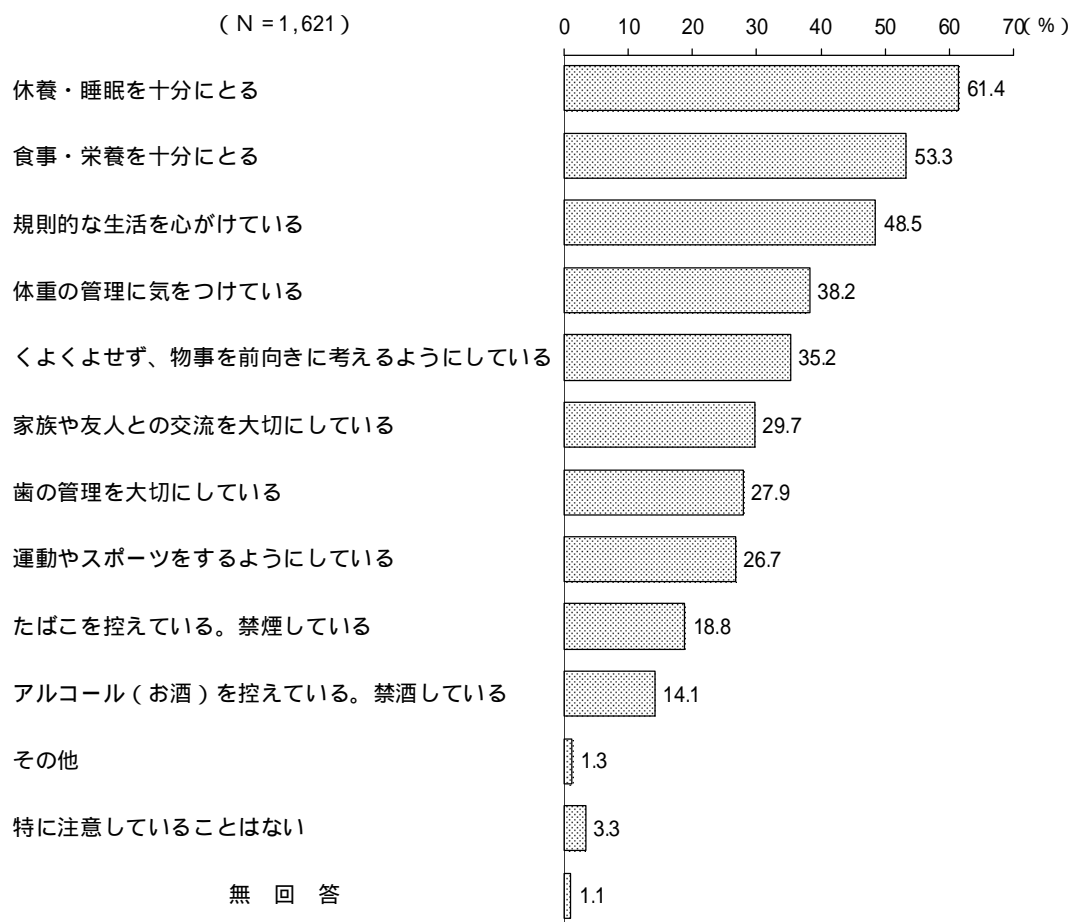
4 . 保健・福祉・医療

4 - 1 健康のために注意していること

「休養・睡眠を十分にとる」が61.4%

問17 現在の健康を保つため、日常生活を送る上で特に注意していることはありますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んでください。 (はいいくつでも)

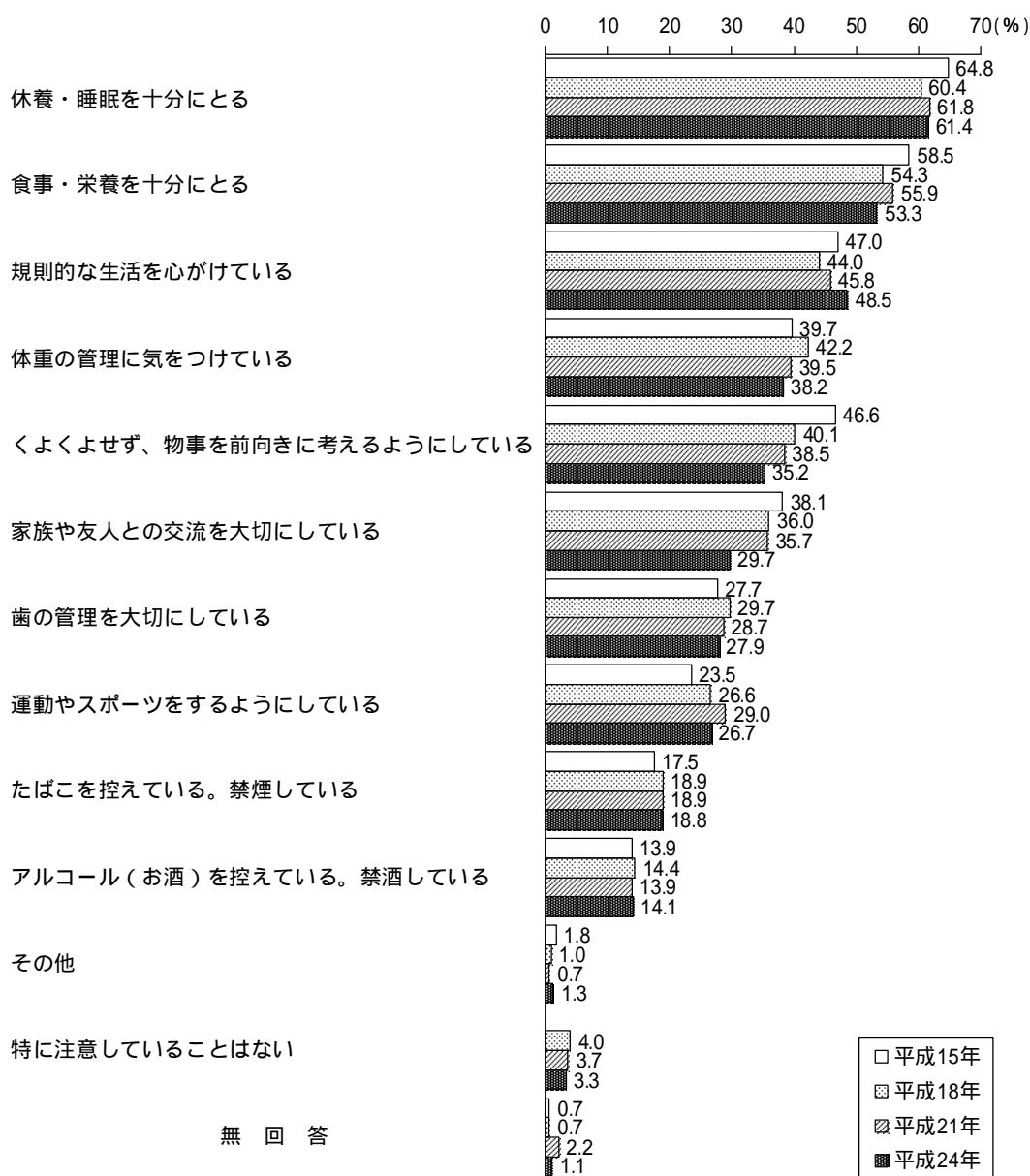
図4 - 1 - 1



健康のために注意していることをたずねたところ、「休養・睡眠を十分にとる」(61.4%) が最も多く、60%を超えている。以下、「食事・栄養を十分にとる」(53.3%)、「規則的な生活を心がけている」(48.5%)、「体重の管理に気をつけている」(38.2%)、「くよくよせず、物事を前向きに考えるようにしている」(35.2%) などの順となっている。(図4 - 1 - 1)

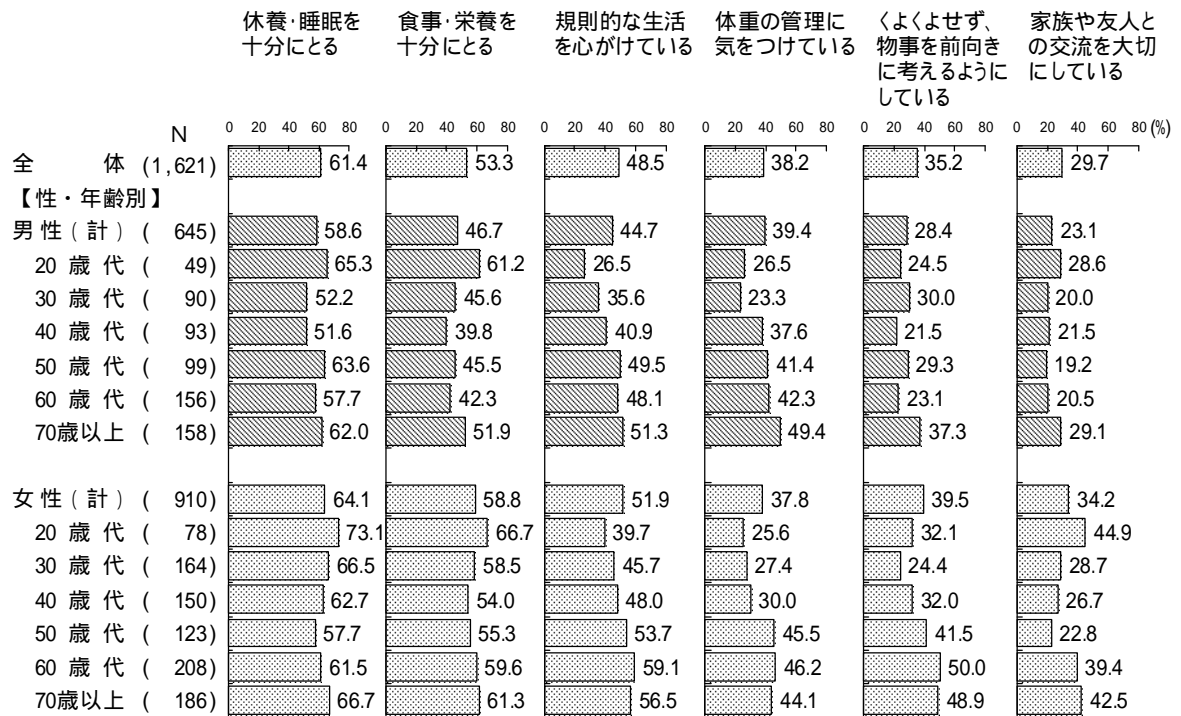
時系列でみると、「くよくよせず、物事を前向きに考えるようにしている」と「家族や友人との交流を大切にしている」が減少傾向となっている。それ以外の項目では、大きな傾向の違いはみられない。(図4-1-2)

図4-1-2 時系列 健康のために注意していること



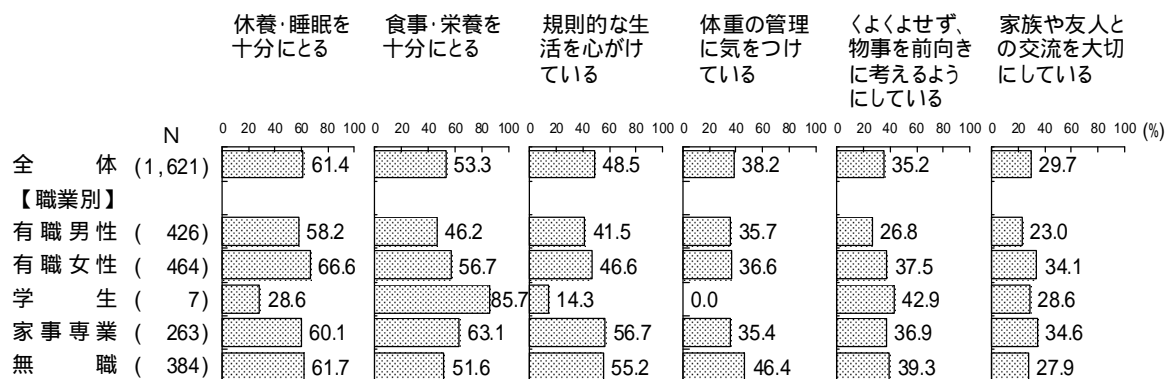
上位6項目について性・年齢別にみると、「休養・睡眠を十分にとる」と「食事・栄養を十分にとる」は、男女とも20歳代が他の年代に比べて最も割合が多くなっている。「規則的な生活を心がけている」と「体重の管理に気をつけている」はおおむね年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向にある。「くよくよせず、物事を前向きに考えるようにしている」は女性60歳代と70歳以上が50%前後で多くなっている。(図4-1-3)

図4-1-3 性・年齢別 健康のために注意していること



職業別にみると、「規則的な生活を心がけている」は家事専業と無職がともに50%半ばで多くなっている。「体重の管理に気をつけている」は無職が40%半ばで多くなっている。(図4-1-4)

図4-1-4 職業別 健康のために注意していること

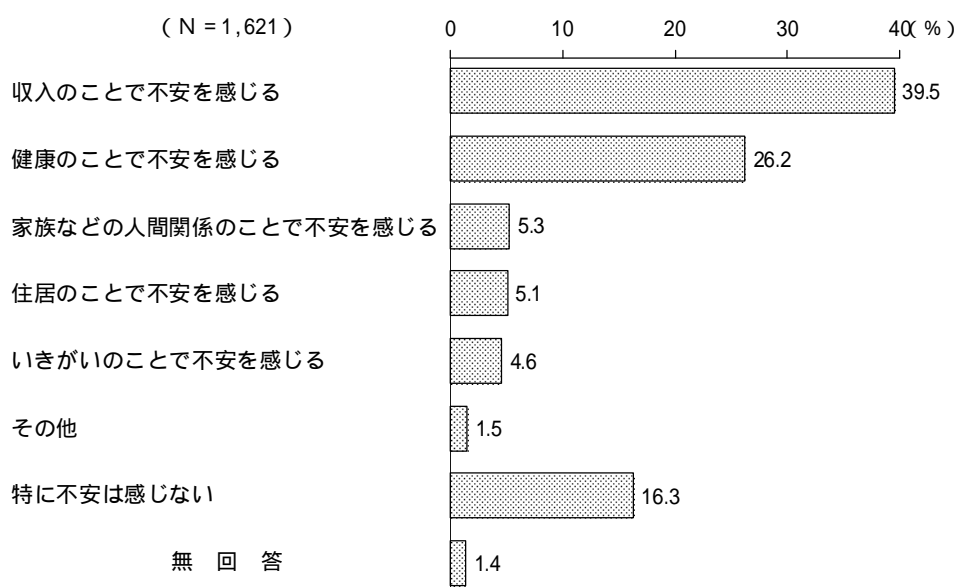


4 - 2 老後の生活への不安

「収入のことで不安を感じる」が39.5%

問18 あなたは老後の生活について不安を感じますか。次の中から主なものを1つだけ選んでください。(は1つ)

図4 - 2 - 1



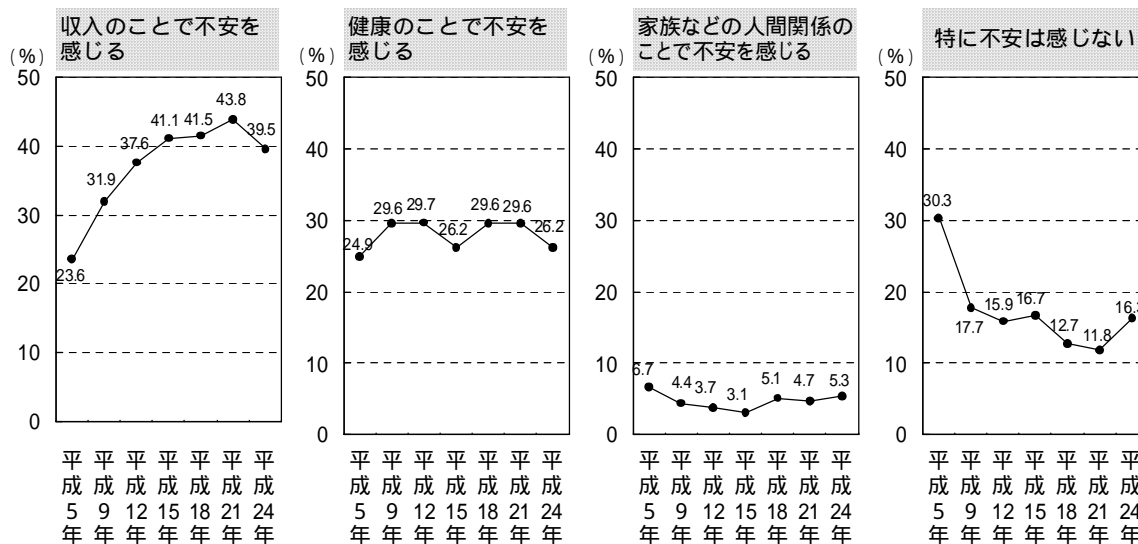
老後の生活への不安をたずねたところ、「収入のことで不安を感じる」(39.5%)が最も多く、40%近くとなっている。以下、「健康のことで不安を感じる」(26.2%)、「家族などの人間関係のことで不安を感じる」(5.3%)、「住居のことで不安を感じる」(5.1%)、「いきがいのことで不安を感じる」(4.6%)の順となっている。また、「特に不安は感じない」(16.3%)は10%半ばとなっている。

(図4 - 2 - 1)

上位4項目を時系列でみると、「収入のことで不安を感じる」は前回調査と比べて4.3ポイント減少している。「特に不安は感じない」は前回調査と比べて4.5ポイント増加している。

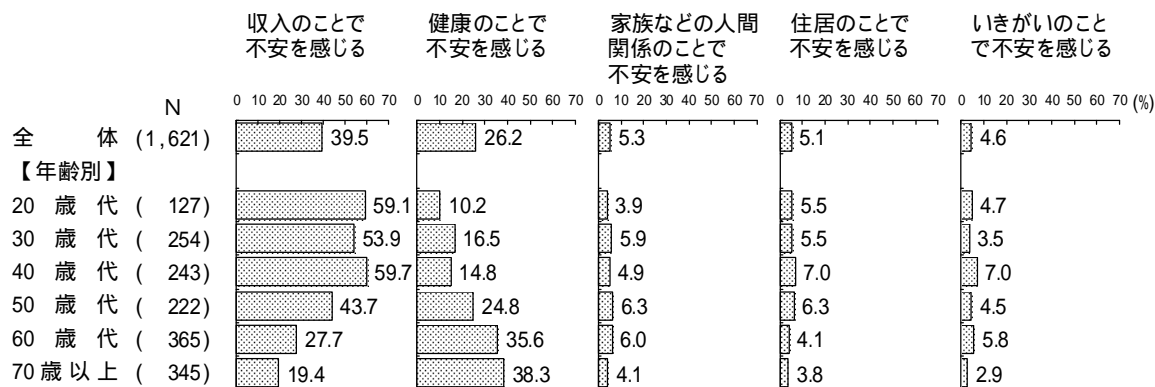
(図4-2-2)

図4-2-2 時系列 老後の生活への不安



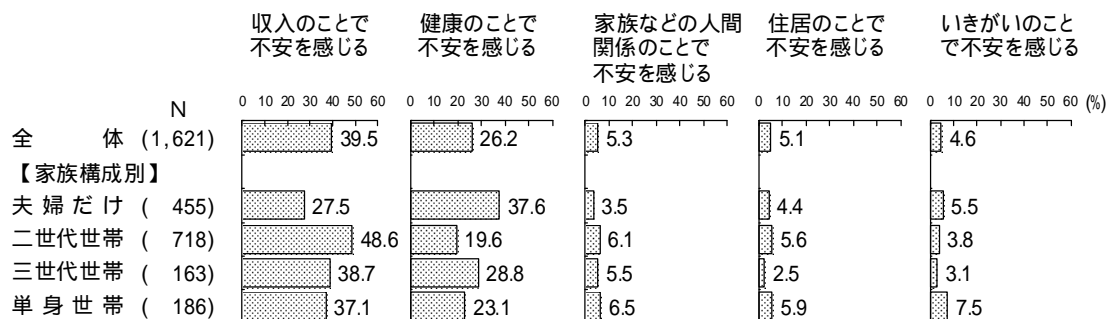
年齢別にみると、「収入のことで不安を感じる」は20歳代から40歳代の年代がいずれも50%台で多くなっている。「健康のことで不安を感じる」は70歳以上が40%近く、60歳代が30%半ばで多くなっている。(図4-2-3)

図4-2-3 年齢別 老後の生活への不安



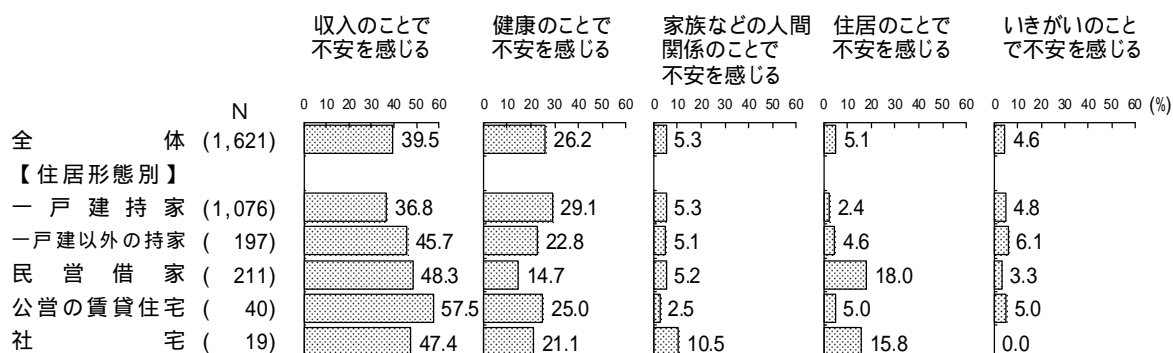
家族構成別にみると、「収入のことで不安を感じる」は二世代世帯が50%近くで多くなっている。「健康のことで不安を感じる」は夫婦だけの世帯が40%近くで多くなっている。(図4-2-4)

図4-2-4 家族構成別 老後の生活への不安



住居形態別にみると、「収入のことで不安を感じる」は公営の賃貸住宅が60%近くで多くなっている。「健康のことで不安を感じる」は一戸建持家が30%近くで多くなっている。「住居のことで不安を感じる」は民間借家が20%近くで多くなっている。(図4-2-5)

図4-2-5 住居形態別 老後の生活への不安

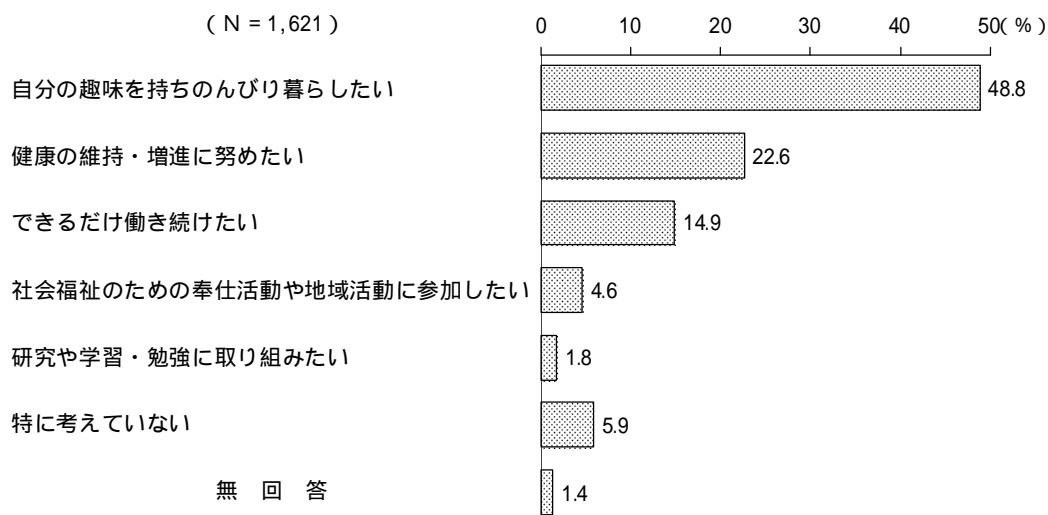


4 - 3 老後の過ごし方

「自分の趣味を持ちのんびり暮らしたい」が48.8%

問19 あなたは、老後の過ごし方についてどのようにお考えですか。自分の考えに近いものを次の中から1つだけ選んでください。(は1つ)

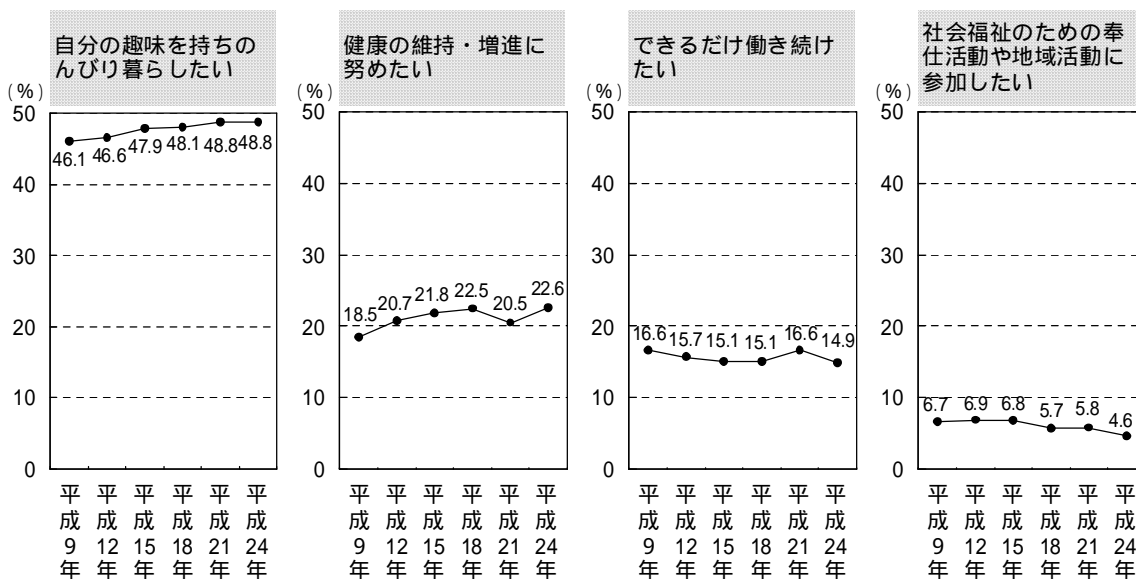
図4 - 3 - 1



老後の過ごし方をたずねたところ、「自分の趣味を持ちのんびり暮らしたい」(48.8%)が最も多く、50%近くとなっている。以下、「健康の維持・増進に努めたい」(22.6%)、「できるだけ働き続けたい」(14.9%)、「社会福祉のための奉仕活動や地域活動に参加したい」(4.6%)などの順となっている。(図4 - 3 - 1)

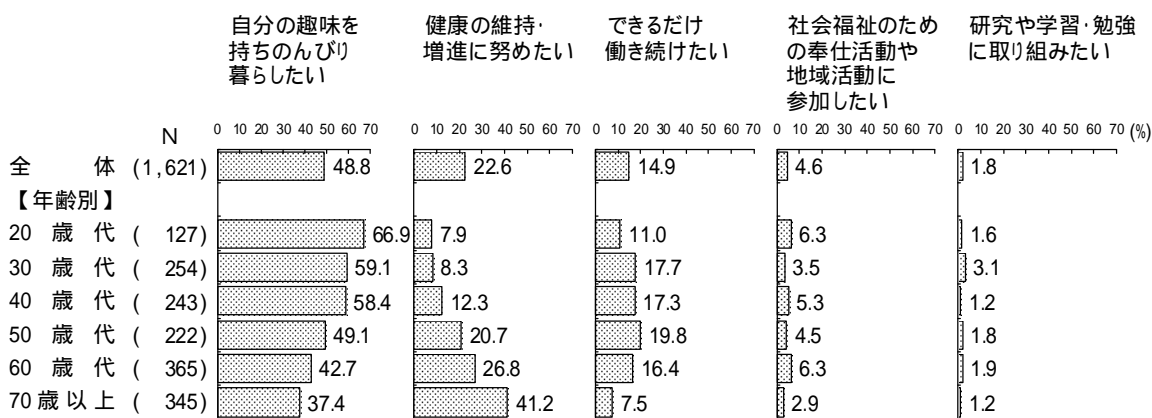
上位4項目を時系列で見ると、過去の調査とほぼ同じ傾向となっている。(図4-3-2)

図4-3-2 時系列 老後の過ごし方



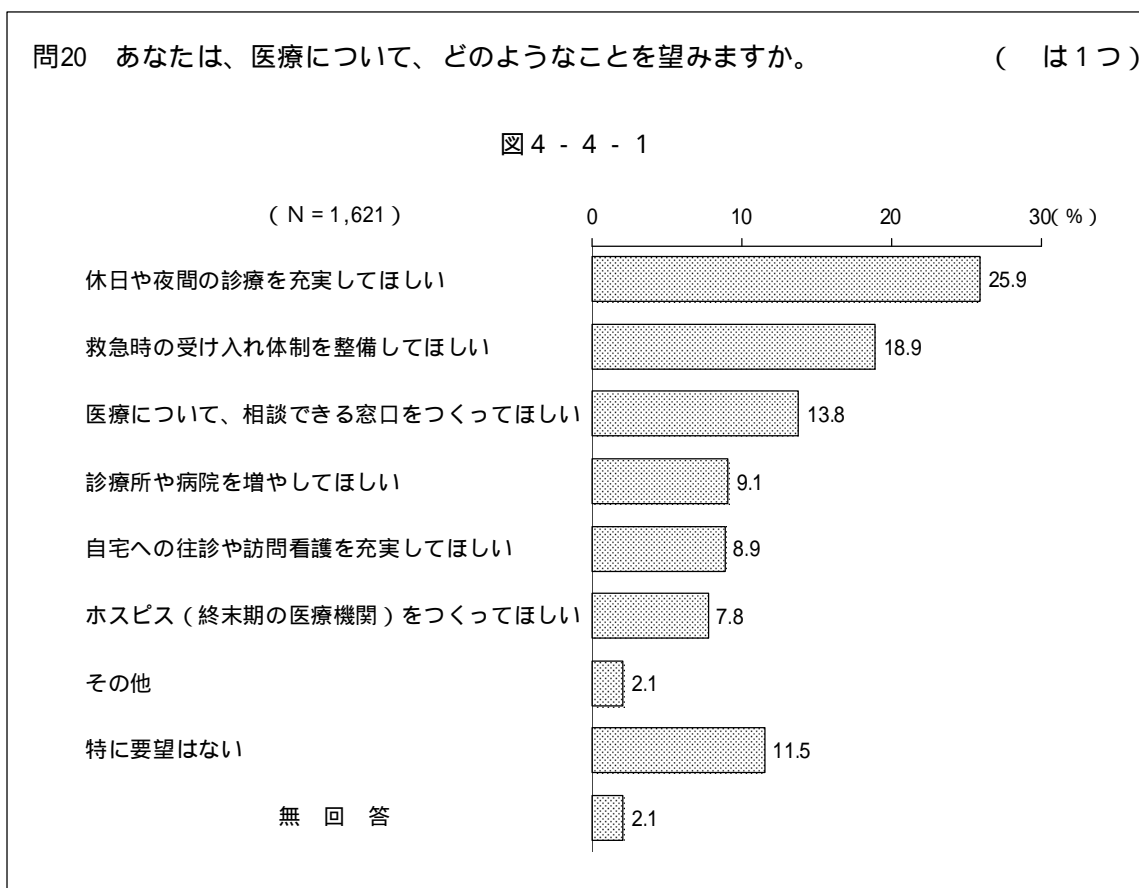
年齢別にみると、「自分の趣味を持ちのんびり暮らしたい」は低い年代ほど割合が高くなっており、特に20歳代が60%半ばで多くなっている。「健康の維持・増進に努めたい」は高い年代ほど割合が高くなっており、特に70歳以上が40%を超えている。(図4-3-3)

図4-3-3 年齢別 老後の過ごし方



4 - 4 医療に対する要望

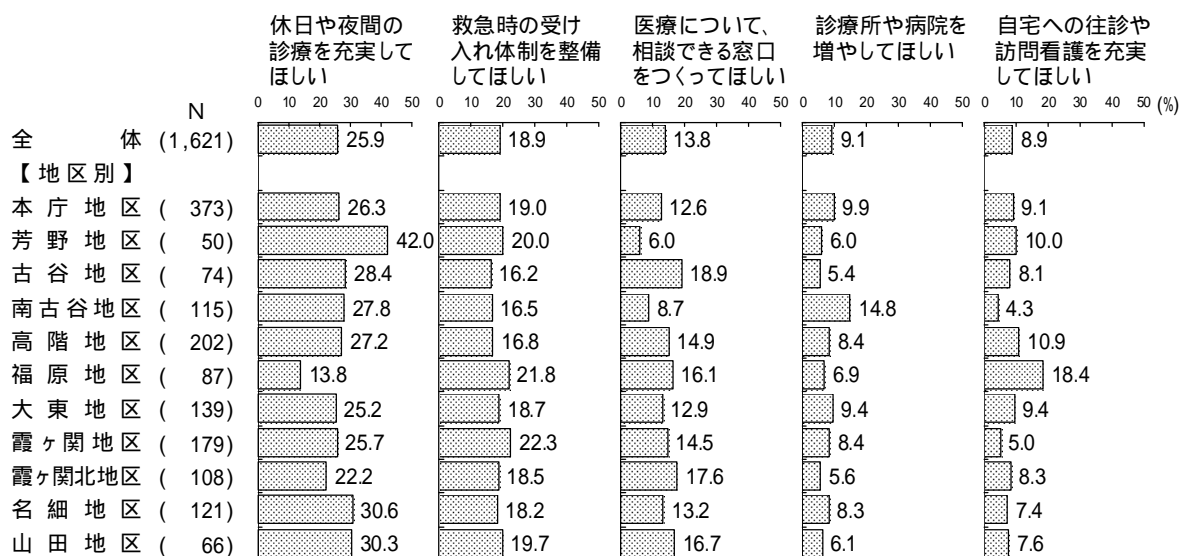
「休日や夜間の診療を充実してほしい」が25.9%



医療に対する要望をたずねたところ、「休日や夜間の診療を充実してほしい」(25.9%)が最も多く、20%半ばとなっている。以下、「救急時の受け入れ体制を整備してほしい」(18.9%)、「医療について、相談できる窓口をつくってほしい」(13.8%)、「診療所や病院を増やしてほしい」(9.1%)、「自宅への往診や訪問看護を充実してほしい」(8.9%)などの順となっている。(図4 - 4 - 1)

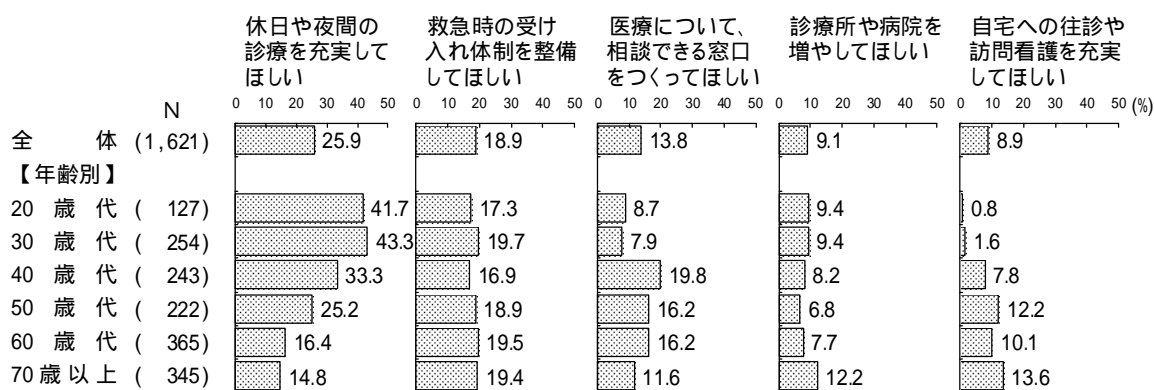
上位5項目を地区別にみると、「休日や夜間の診療を充実してほしい」は芳野地区が40%を超えて多くなっている。「自宅への往診や訪問看護を充実してほしい」は福原地区が20%近くで多くなっている。(図4-4-2)

図4-4-2 地区別 医療に対する要望



上位5項目を年齢別にみると、「休日や夜間の診療を充実してほしい」は20歳代と30歳代がともに40%を超えて多くなっている。「医療について、相談できる窓口をつくってほしい」は40歳代が20%近くとなっている。(図4-4-3)

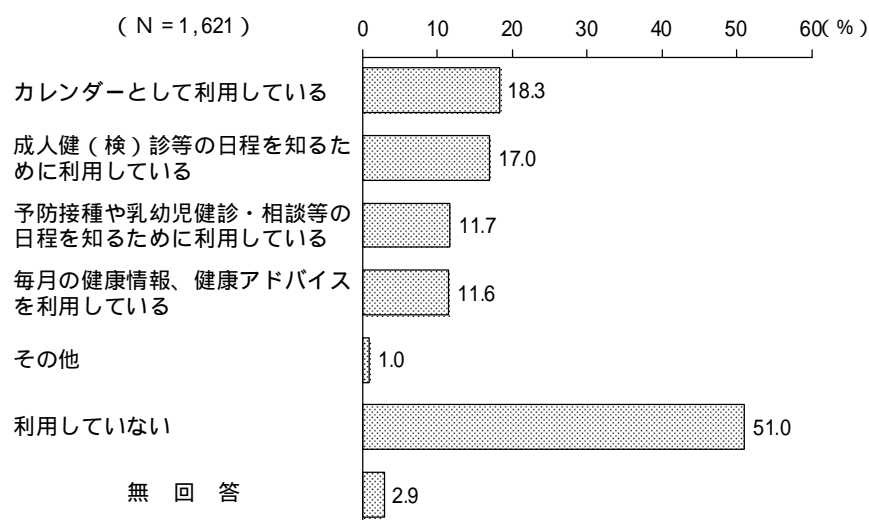
図4-4-3 年齢別 医療に対する要望



4 - 5 「健康づくりスケジュール」の利用法 「カレンダーとして利用している」が18.3%

問21 あなたは、「健康づくりスケジュール」をどのように利用していますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(はいくつでも)

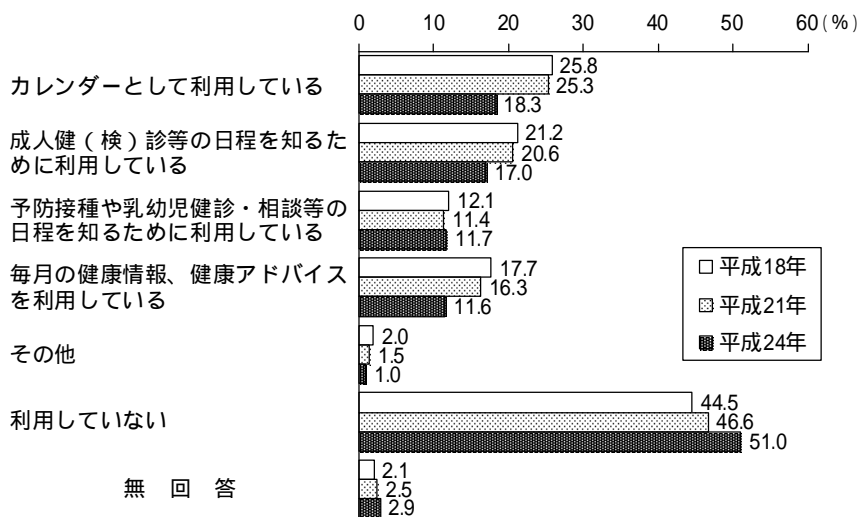
図4 - 5 - 1



「健康づくりスケジュール」の利用法をたずねたところ、「カレンダーとして利用している」(18.3%)が最も多く、20%近くとなっている。以下、「成人健(検)診等の日程を知るために利用している」(17.0%)、「予防接種や乳幼児健診・相談等の日程を知るために利用している」(11.7%)、「毎月の健康情報、健康アドバイスを利用している」(11.6%)の順となっている。また、「利用していない」(51.0%)は50%を超えている。(図4 - 5 - 1)

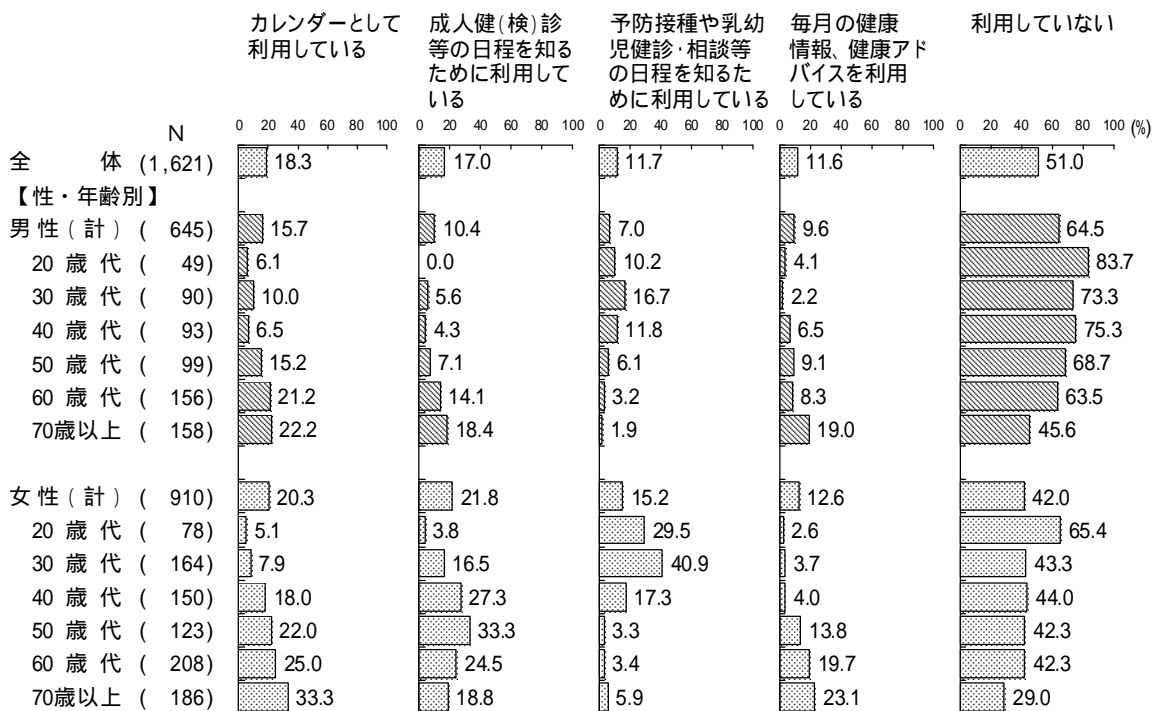
時系列でみると、前回調査と比べて「カレンダーとして利用している」で7.0ポイント、「毎月の健康情報、健康アドバイスを利用している」で4.7ポイント減少している。逆に「利用していない」は前回調査と比べて4.4ポイント増加している。(図4-5-2)

図4-5-2 時系列 「健康づくりスケジュール」の利用法



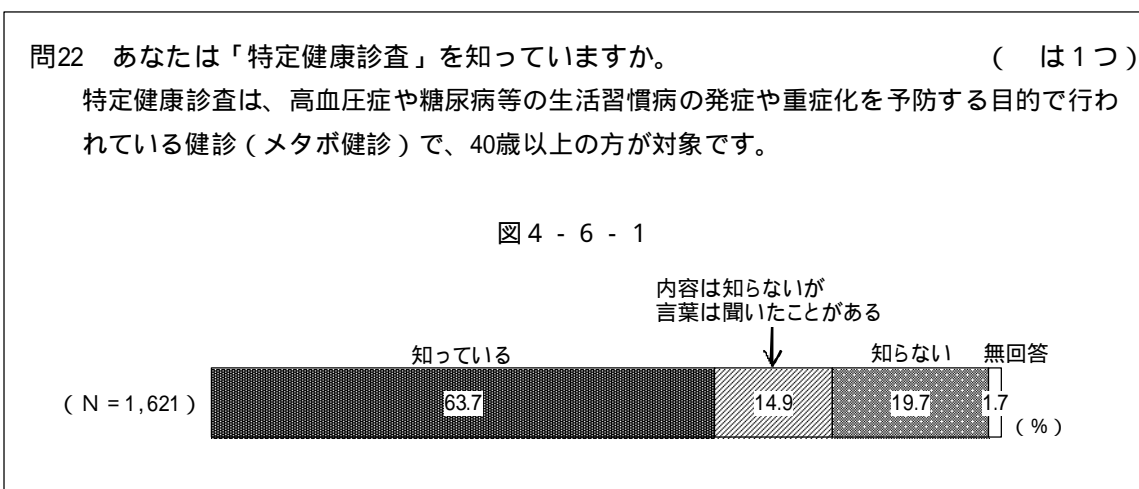
性・年齢別にみると、「カレンダーとして利用している」は女性70歳以上が30%を超えて多くなっている。「成人健(検)診等の日程を知るために利用している」は女性50歳代が30%を超えて多くなっている。「予防接種や乳幼児健診・相談等の日程を知るために利用している」は女性30歳代が40%を超え、女性20歳代が30%近くで多くなっている。(図4-5-3)

図4-5-3 性・年齢別 「健康づくりスケジュール」の利用法



4 - 6 特定健康診査の認知度

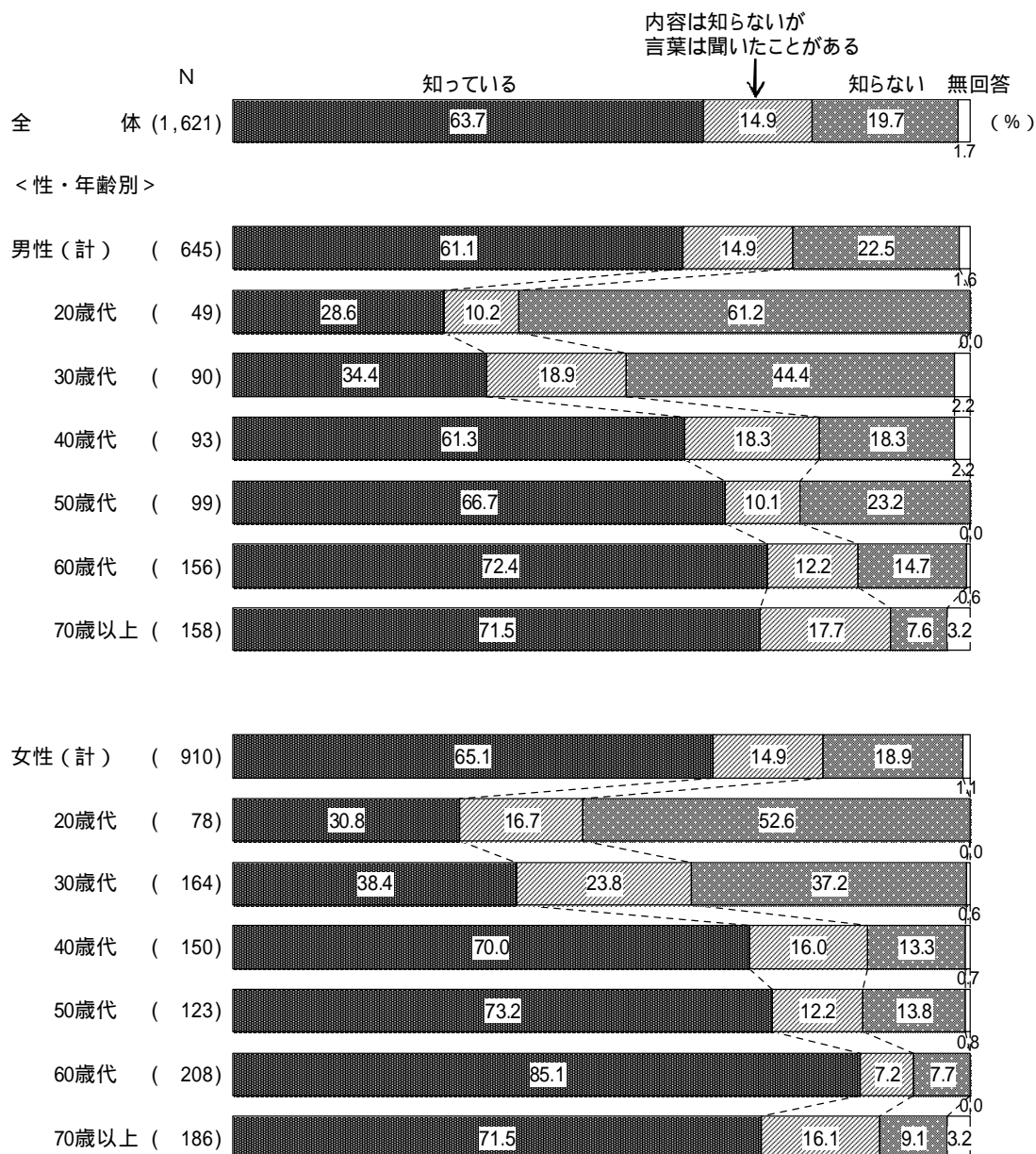
「知っている」は63.7%



特定健康診査を知っているかたずねたところ、「知っている」(63.7%)が最も多く、60%を超えている。「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」(14.9%)は10%半ばで、「知らない」(19.7%)は20%近くとなっている。(図4 - 6 - 1)

性・年齢別にみると、「知っている」は男女とも40歳以上の年代で多くなっており、特に女性60歳代が80%半ばで多くなっている。「知らない」は男性20歳代が60%を超え、女性20歳代が50%を超えている。(図4-6-2)

図4-6-2 性・年齢別 特定健康診査の認知度

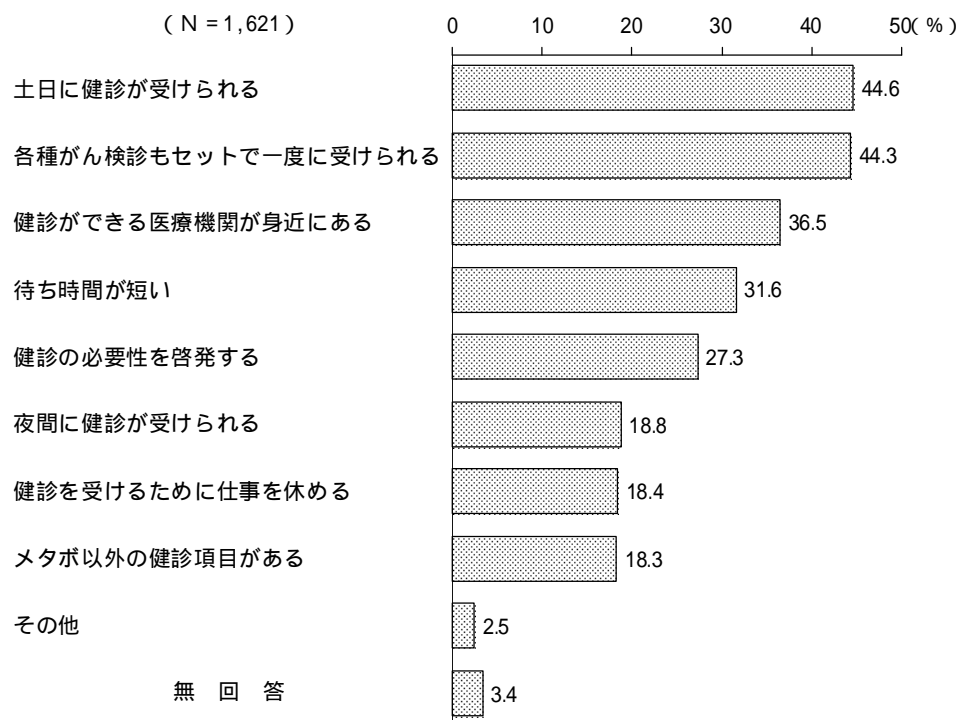


4 - 7 特定健康診査の受診率向上のための取組

「土日に健診が受けられる」が44.6%、「各種がん検診もセットで一度に受けられる」が44.3%

問23 多くの方に特定健康診査を受けてもらうために、どのようにすべきだと思いますか。
(はいくつでも)

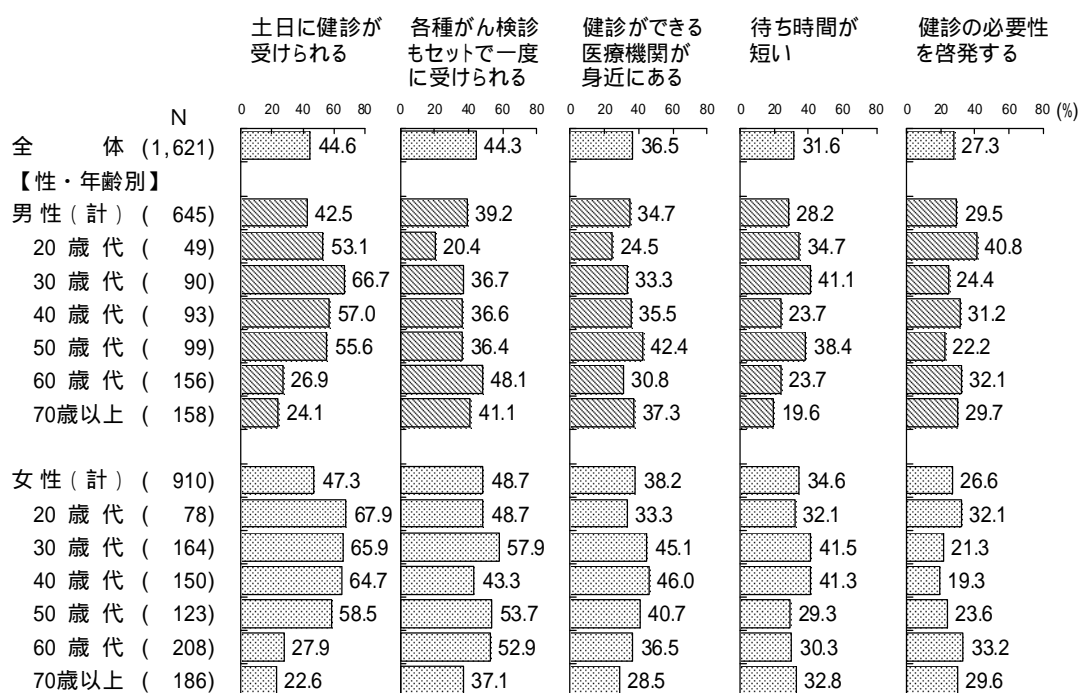
図4 - 7 - 1



特定健康診査の受診率向上のための取組をたずねたところ、「土日に健診が受けられる」(44.6%)と「各種がん検診もセットで一度に受けられる」(44.3%)が多く、ともに40%半ばとなっている。以下、「健診ができる医療機関が身近にある」(36.5%)、「待ち時間が短い」(31.6%)、「健診の必要性を啓発する」(27.3%)などの順となっている。(図4 - 7 - 1)

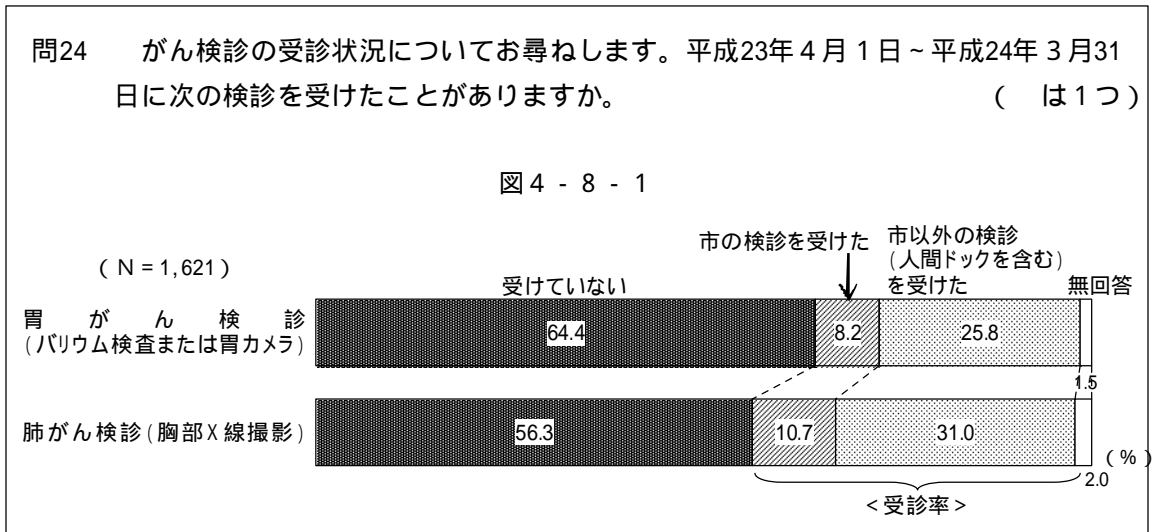
上位5項目を性・年齢別にみると、「土日に健診が受けられる」は男性30歳代、女性の20歳代から40歳代の年代がいずれも60%半ばで多くなっている。「各種がん検診もセットで一度に受けられる」は女性30歳代が60%近くで多くなっている。「健診ができる医療機関が身近にある」は女性30歳代と40歳代がいずれも40%半ばで多くなっている。「待ち時間が短い」は男性30歳代と女性30歳代、40歳代がいずれも40%を超えている。(図4-7-2)

図4-7-2 性・年齢別 特定健康診査の受診率向上のための取組



4 - 8 がん検診の受診状況

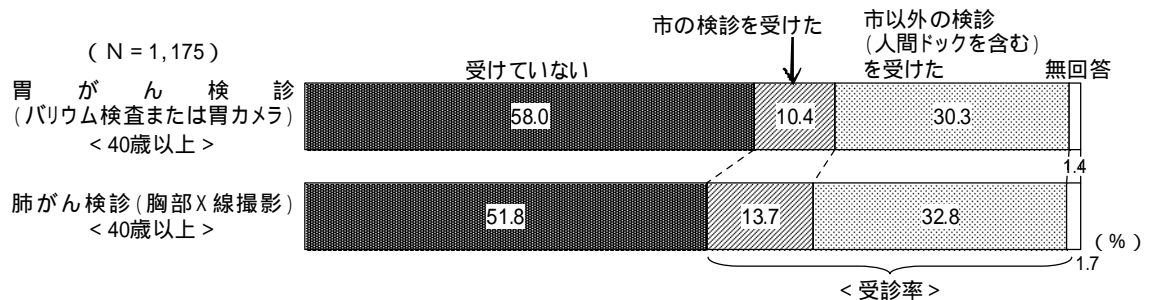
40歳以上の<受診率>は、胃がん検診が40.7%、肺がん検診が46.5%



がん検診の受診状況をたずねたところ、「市の検診を受けた」と「市以外の検診(人間ドックを含む)を受けた」の2つを合わせた<受診率>は、胃がん検診(バリウム検査または胃カメラ)が30%半ば、肺がん検診(胸部X線撮影)が40%を超えている。(図4 - 8 - 1)

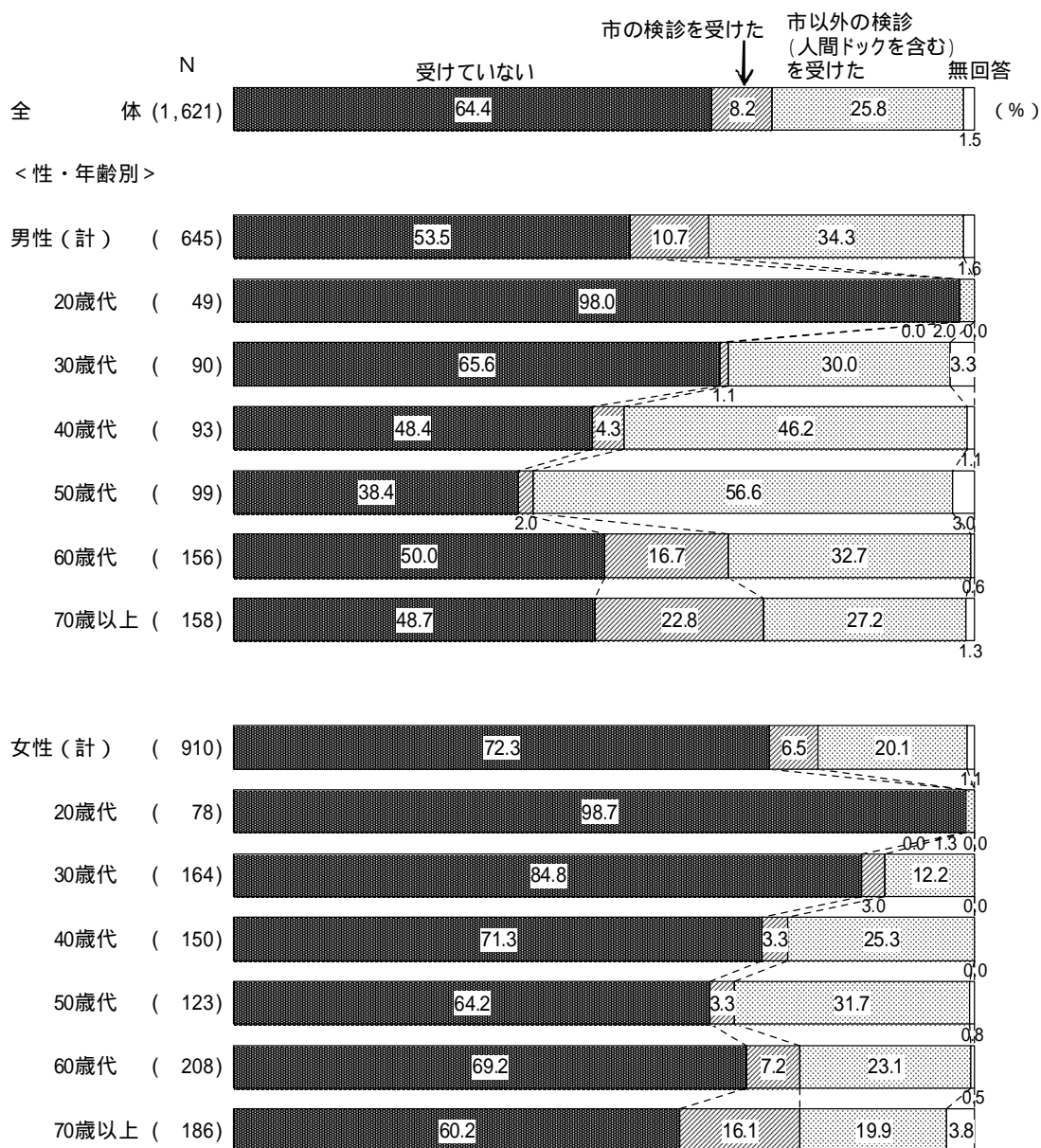
市のがん検診の対象年齢である40歳以上(1,175人)の<受診率>は、胃がん検診(バリウム検査または胃カメラ)が40.7%が40%を超え、肺がん検診(胸部X線撮影)が46.5%が40%半ばとなっている。(図4 - 8 - 2)

図4 - 8 - 2 40歳以上の方のがん検診の受診状況



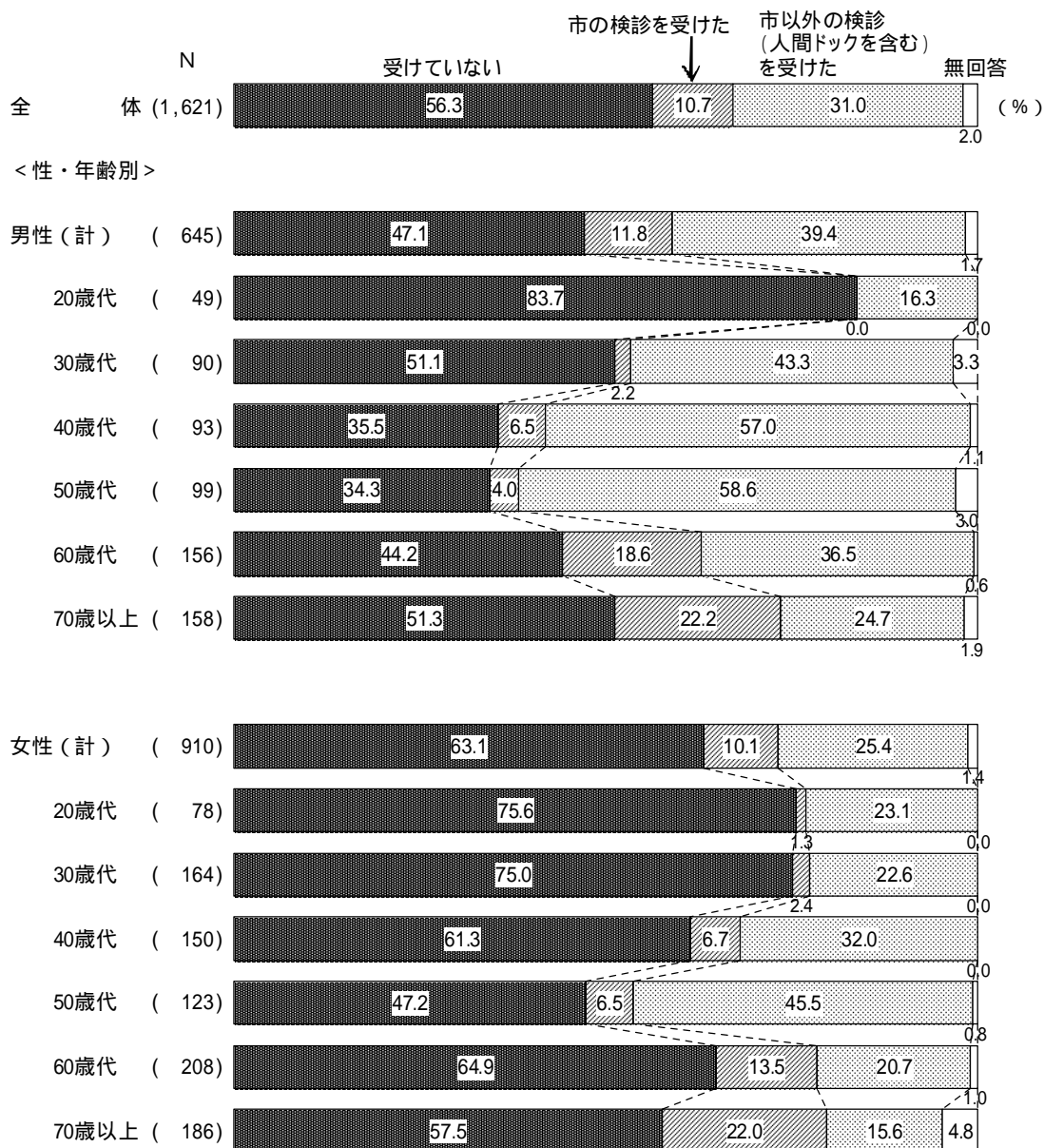
胃がん検診（バリウム検査または胃カメラ）について性・年齢別にみると、「市の検診を受けた」と「市以外の検診（人間ドックを含む）を受けた」の2つを合わせた「受診率」は、男性では、50歳代が60%近くで最も多く、40歳代、60歳代、70歳以上でも50%前後となっている。女性では、70歳以上が30%半ばで最も多く、40歳代、50歳代、60歳代でも30%前後となっている。（図4 - 8 - 3）

図4 - 8 - 3 性・年齢別 胃がん検診（バリウム検査または胃カメラ）の受診状況



肺がん検診（胸部X線撮影）について性・年齢別にみると、「市の検診を受けた」と「市以外の検診（人間ドックを含む）を受けた」の2つを合わせた＜受診率＞は、男性では、40歳代と50歳代がともに60%を超えて多く、60歳代でも50%半ばとなっている。女性では、50歳代が50%を超えて多く、40歳代、70歳以上でも40%近くとなっている。（図4 - 8 - 4）

図4 - 8 - 4 性・年齢別 肺がん検診（胸部X線撮影）の受診状況



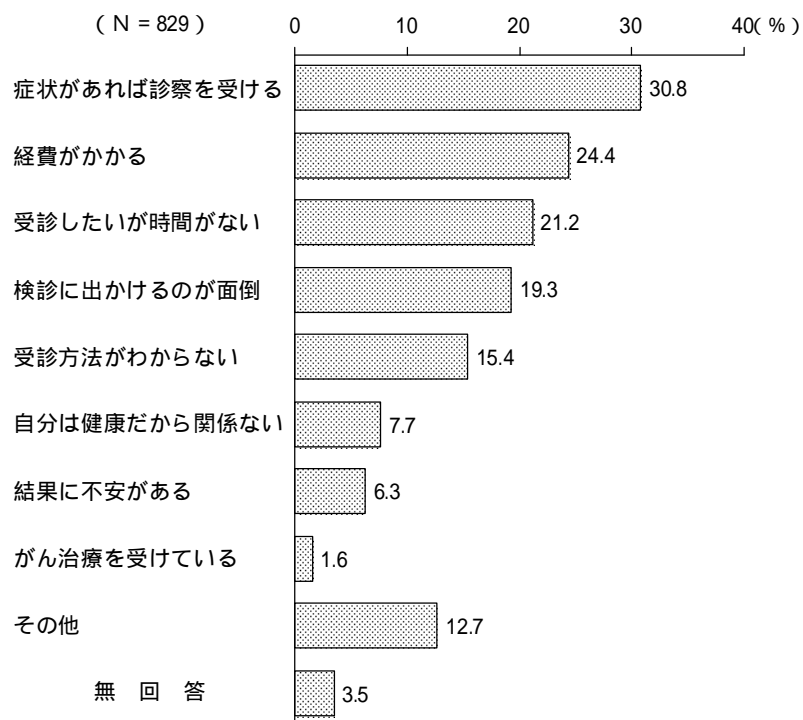
4 - 9 がん検診を受診していない理由

「症状があれば診察を受ける」が30.8%

問24 で胃がん検診・肺がん検診ともに「受けていない」と答えた方におたずねします。

問24 がん検診を受診しない理由は何ですか。 (はいくつでも)

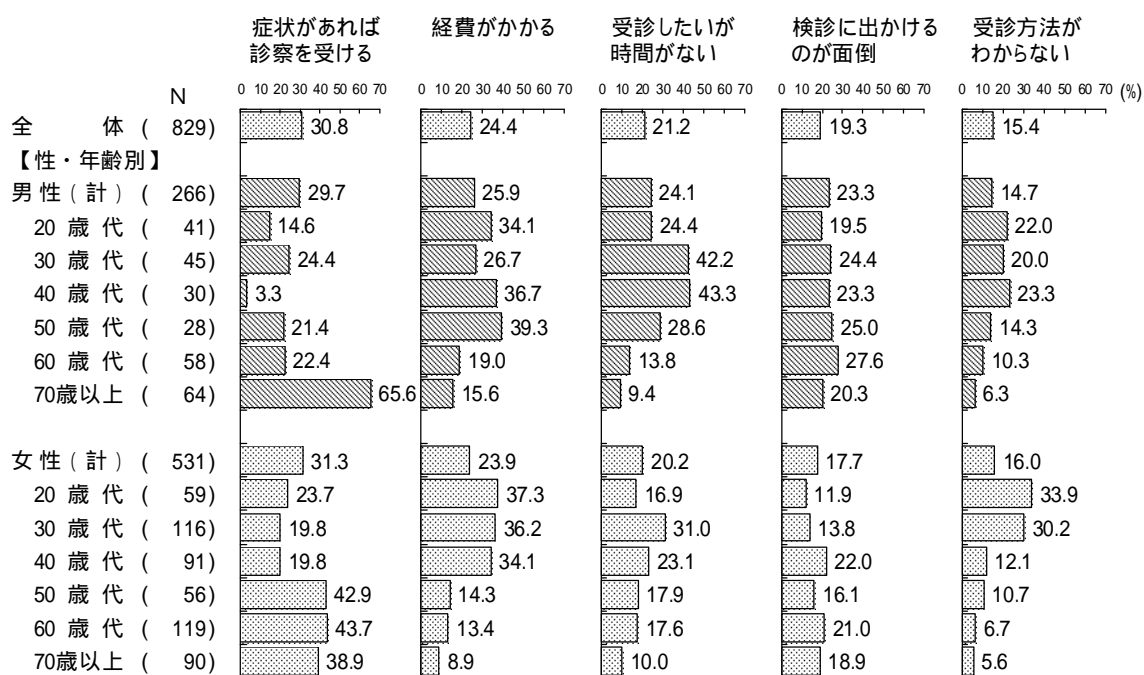
図 4 - 9 - 1



問24 で胃がん検診・肺がん検診ともに「受けていない」と答えた人(829人)に、その理由をたずねたところ、「症状があれば診察を受ける」(30.8%)が最も多く、30%を超えている。以下、「経費がかかる」(24.4%)、「受診したいが時間がない」(21.2%)、「検診に出かけるのが面倒」(19.3%)、「受診方法がわからない」(15.4%)などの順となっている。(図4-9-1)

上位5項目を性・年齢別にみると、「症状があれば診察を受ける」は男性70歳以上が60%半ばで特に多く、女性50歳代と60歳代でもともに40%を超えて多くなっている。「経費がかかる」は男性50歳代と女性20歳代がともに40%近くで多くなっている。「受診したいが時間がない」は男性30歳代と40歳代がともに40%を超えて多く、「受診方法がわからない」は女性20歳代と30歳代がともに30%を超えて多くなっている。(図4-9-2)

図4-9-2 性・年齢別 がん検診を受診していない理由

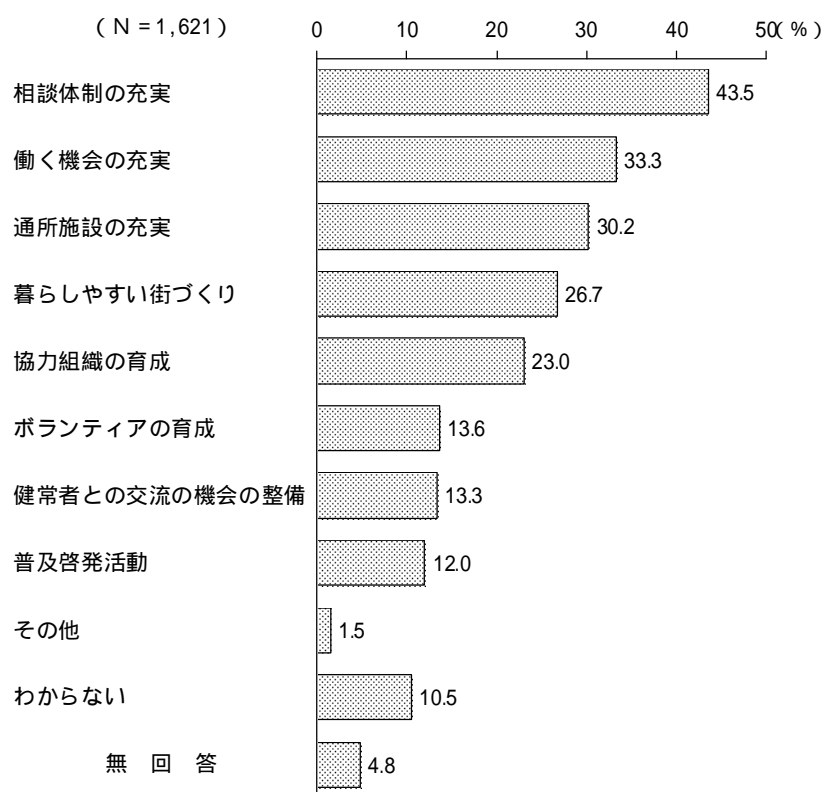


4 - 10 精神障害者のために充実すべきこと

「相談体制の充実」が43.5%

問25 精神に障害がある方のために特に充実していく必要があると思われるものは何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

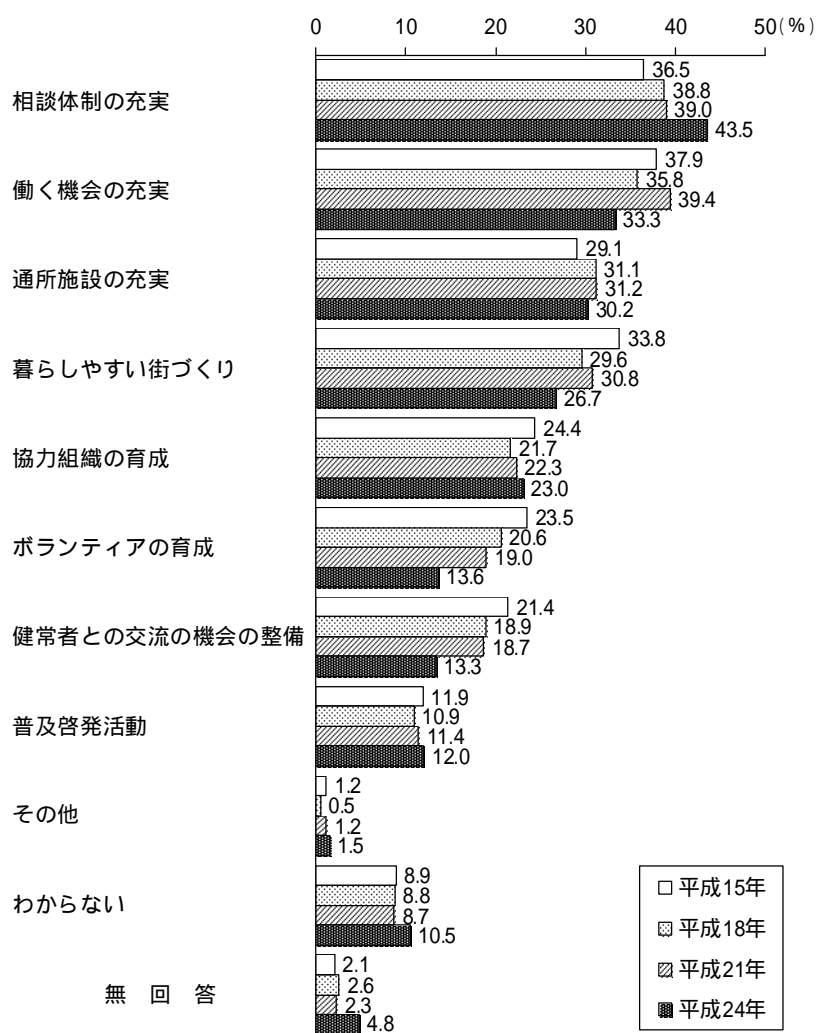
図4 - 10 - 1



精神障害者のために充実すべきことをたずねたところ、「相談体制の充実」(43.5%)が最も多く、40%を超えている。以下、「働く機会の充実」(33.3%)、「通所施設の充実」(30.2%)、「暮らしやすい街づくり」(26.7%)、「協力組織の育成」(23.0%)などの順となっている。(図4 - 10 - 1)

時系列でみると、「相談体制の充実」は増加傾向にあり、前回調査と比べて4.5ポイント増加している。「働く機会の充実」は前回調査と比べて6.1ポイント減少している。「ボランティアの育成」と「健全者との交流の機会の整備」は減少傾向となっている。(図4-10-2)

図4-10-2 時系列 精神障害者のために充実すべきこと



上位5項目を年齢別にみると、「相談体制の充実」は60歳代が50%を超えて多くなっている。「働く機会の充実」はおおむね低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に20歳代では50%を超えている。「通所施設の充実」は60歳代が40%近くで多くなっている。(図4 - 10 - 3)

図4 - 10 - 3 年齢別 精神障害者のために充実すべきこと

